


CASKET STYLE

VOL.2 2007.COME SPRING



CASKET

〒816-0802 福岡県春日市春日原北町3丁目-51
TEL. (092) 581-1187 FAX. (092) 592-3848
<http://www.club-casket.com>

A wide-angle photograph of a sunset. The sun is a bright orange orb on the left side of the frame, partially obscured by a dark horizon. The sky is a gradient of colors from dark blue at the top to a hazy orange near the horizon. There are some wispy clouds. On the right side, there is a white rectangular box containing Japanese text.

つりという時間

シャッターを切り、
陽の温かさを感じたら
僕の気分はもう変わっていた。
あとは魚に出逢ってもう一度、
気持ちを積み上げればいい。
僕の釣りとはそんな時間なのです。



Published by CLUB CASKET
Publisher : Tsutae Teshima
Producer : Hiroshi Teshima
Text & Photograph : Hiroshi Teshima
Art director : Nobuyoshi Okabe
Designer : Hirotaka Matsuzoe
Printing director : Hiroshi Yamasaki
Web designer : Yuichiro Mizukami

PRINTED IN JAPAN © FUKUOKA PRINTING

Contents [コンテンツ]

Introduction	01
Contents	02
■ Trout Rod series	
Speyside	04
Triumph	05
Revolution	06
Tradition	07
Ruinos Huchen	08
Wood line up	09
■ Lunding Net Conclusion series	
Monster & Big trout	12
Big trout curve & Stream30	13
Stream26 & Stream23	14
Wood line up	15
■ Minnow	
Balsa TRAD58&78	18
■ Line	
Trout plugging	20
■ Casket Goods	21
■ Topwater Bass Fly	
Dear bass	24
■ Canoe	
Gillie131	28
■ Topwater Bass rod	
Heavy gauge	30
■ Simple fishing	
Simply	32
■ Column	33
■ Editor's Note	49

美はしきもの見し人は

プラーテン：生田春月・訳

水にゆらめく高潔な銀鱗の輝きは
彼らの後世に繋ぐ意志の光。美
はしきものはやがて死を迎え、希
望の意志は泉の如く涸れはてん。



撮影協力：福岡市大名BAR「Coda」 photographed by Takatoshi Yokoyama

BORON

SPEYSIDEとはスコットランド・スベリバーのほりという意味と同時にスコッチウイスキーの名門蒸留所一帯のことを言う。清く豊潤な水は我々に酒を与え、鱒を育み、恵みを与える。スベリバーのほりで鱒に敬意を払い、高貴な振る舞いで狙う英国鱒釣り師の姿に憧れといつかの夢を見て今宵も一杯。

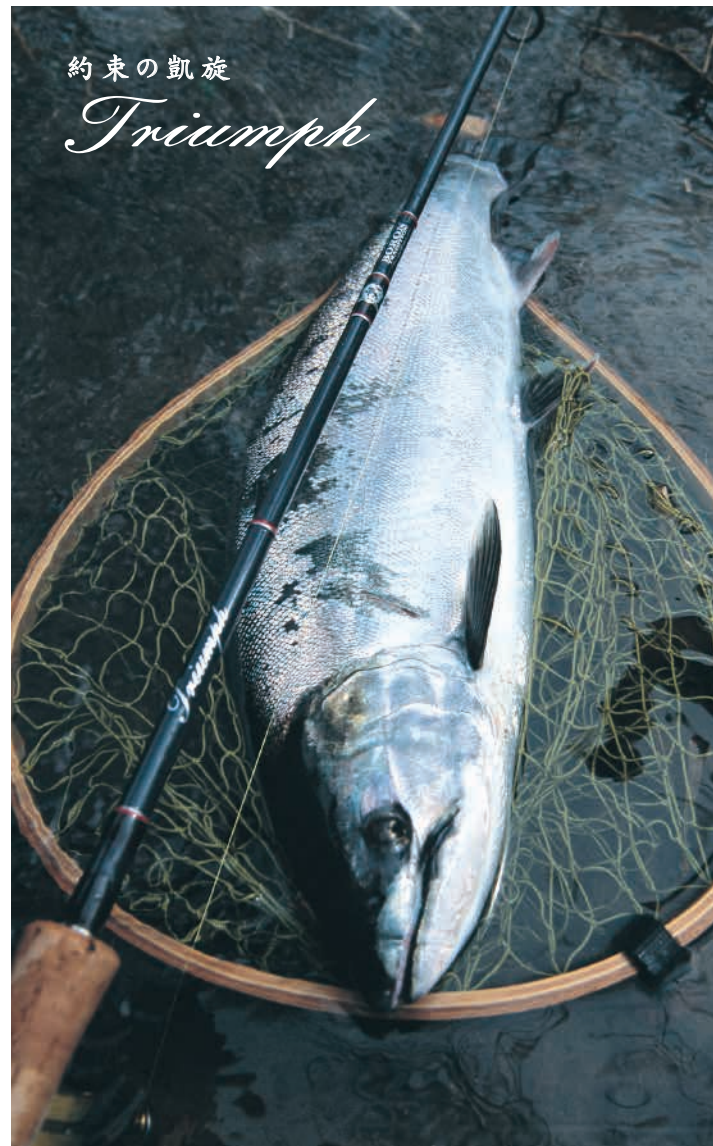
SPB88HS

Lure weight 7~24g, Line class 8~16LB, GRIP: Double (END 260mm)
SPB88HSは92XHSのシェイプアップモデル。より本流でのトラウトフィッシングに実践的なミノーイング、スプーニングのスペックのみにして持て余す不必要なパワーや粘りを削り取るとなる。

SPB92XHS

Lure weight 10~35g, Line class 8~20LB, GRIP: Double (END 270mm)
モンスタークラスの鱒を本流でもしっかり受け止める強靱なバットパワーと9cmクラスのフローティングミノーも放つ繊細ティップ。さらにキャストのマックスウエイトは30g超と海サクラや湖でのジグスタイルにも汎用される、まさに大型鱒専用設計ロッドです。

※表示価格はスタンダードウッド仕様です。詳しくはP9をご覧ください。



photographed by Natsuki Sakurai

BORON

TRB72MHS

Lure weight 5~14g, Line class 5~10LB, GRIP: Double (END 220mm)
本流ヤマメやサツキマスを狙うライアン72は77、83と比べてパワーを下げつつ、若干設計変更した。さらに軽量であらゆるルアーの操作性に優れた1本となった。

TRB77HS

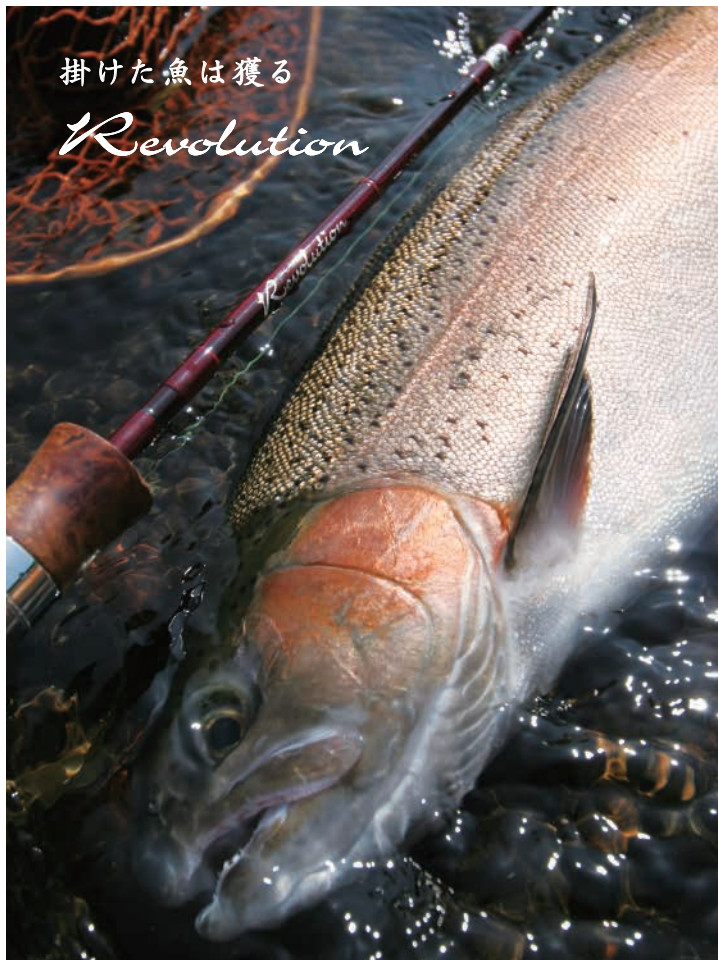
Lure weight 7~24g, Line class 8~16LB, GRIP: Double (END 260mm)
狙いは本流のサクラマス。重量級のスプーンやバイブレーション、9cmミノーの連続アクションを想定してとにかく軽く、操作に必要な極限の張りやスベックを盛り込んだロッド。

TRB83HS

Lure weight 7~24g, Line class 8~16LB, GRIP: Double (END 270mm)
日本中の何処のサクラマスを狙うのにも最適なロッドのレンジ83。的確なアクション操作の硬めのハリはヒットすると美しく曲る。

※表示価格はスタンダードウッド仕様です。詳しくはP9をご覧ください。





掛けた魚は獲る
Revolution

革命と名付けたこのロッドは確かに従来のトラウトロッドからすれば異端児であるかもしれない。ミノ専用設計、はつきりとファーストテーパー、それぞれのレンジ相当の対象魚からすれば有り余るパットパワーを blanks に封じ込めた。絶妙なティップはシンキングミノの動きにさらに生命感を与えた。その結果、熟練の溪流師達は新たな世界を切り開きました。

BORON

RB48LS

Lure weight 1~7g Line class 3~6lb / Grip: Single (END 100mm)
源流専用のベリーショート・ハイテンションロッド。ちょろちょろ源流なのに大イワナが出るようなシーンにぜひお試しを!

RB55MS

Lure weight 2~9g Line class 3~6lb / Grip: Single (END 100mm)
繊細なティップでバックハンドを容易にした溪流スペシャル。瞬時にフックアップできる腰の強さも備えたレボ溪流シリーズのオールマイティロッド。

RB58MS

Lure weight 2~9g Line class 3~6lb / Grip: S.Double (END 140mm)
ブランクは55と同一でグリップ設定を40mm長いセミダブルに変更。溪流域はもちろん、ちょっとした本流も出来る欲張りなロッドです。

RB62MS

Lure weight 3~10g Line class 4~8lb / Grip: S.Double (END 180mm)
中流域のストリームはもちろん、ボートからでも操作性が良く、ビッグトラウト狙いのハイパワーロッド。湿原イトウの堅い顎にもフックアップ可能です。

RB72MHS

Lure weight 3~18g Line class 6~10lb / Grip: Double (END 220mm)
ミネイグで本流ヤマメ、サツキマステクニカルに快適に攻めることが出来る軽量ロッド。押し強い瀬でのアクションやフッキングパワーも申し分ない。

※表示価格はスタンダードウッド仕様です。詳しくはP9をご覧ください。



進化する伝統
Tradition

伝統を重んじるというよりも僕らはこうしたロッドの有効性を十分に知っているのです。パーブレスフックを使うならばフッキングにそんなに力は要らないし、なにより掛けてからのこの柔らかな曲がりのいいロッドをカスケートは忘れることが出来ませんでした。しかしながら軽量感と適度な張り度でシンキングミノのアクションにも満足のいくロッドに仕上げました。伝統は移り変わるのではなく深化・進化するのです。

TR52ULS-4P

Lure weight 1~7g Line class 3~6lb / Grip: Single (END 100mm)
源流を目指すアクティブなトラウトリストに本格的アクションのロッドを提供します。量むとベスト背面にも仕舞えるから帰りは竿をカメラに持ち替える。印籠継ぎ。専用アルミケース付き。

TR55ULS

Lure weight 1~7g Line class 3~6lb / Grip: Single (END 100mm)
国内溪流のテクニカル・スタンダードモデル。必要最低限の張り度でバイトを弾かず、最後の最後までヤマメとのダンスを楽しめます。

TR66LS

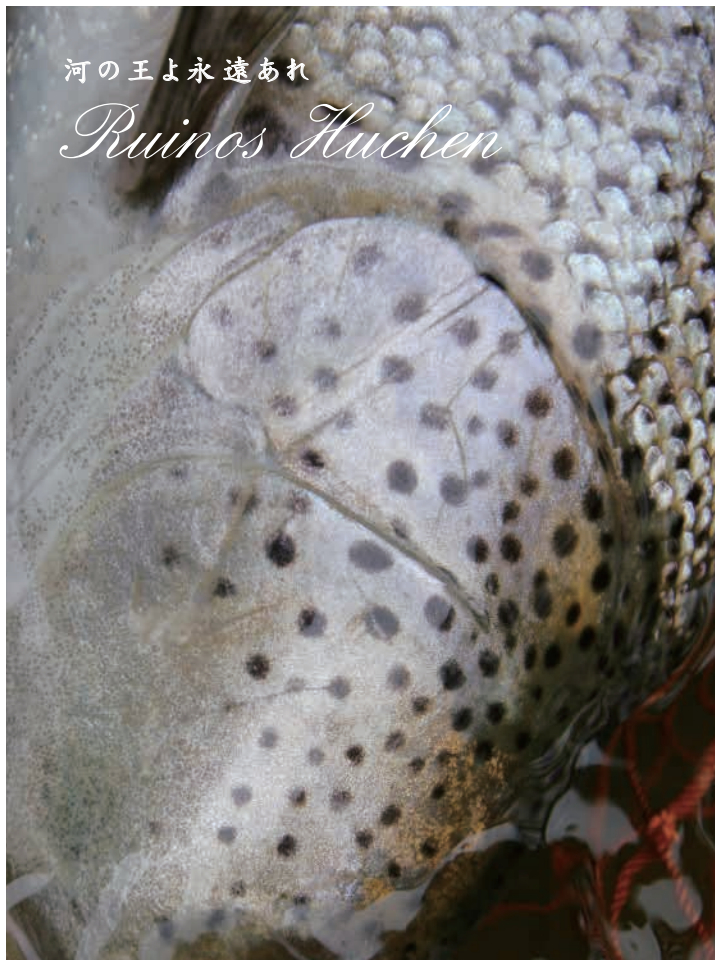
Lure weight 2~9g Line class 3~8lb / Grip: S.Double (END 180mm)
ミノ、スプーンどちらも扱いやすく、アクション時には適度な張りがあるのにヒットするとキレにバンドしてくれる。そんな相反要素を可能にした新たなトラディショナルロッドです。

TR76HS

Lure weight 5~19g Line class 5~10lb / Grip: Double (END 220mm)
本流のミネイグからスプーニングまでこの1本で済ませることが可能です。トルクもあって安心感があるのにキレにバンドする美しいロッドです。

※表示価格はスタンダードウッド仕様です。詳しくはP9をご覧ください。





ルイノとはアイヌ語で強く、ヒューチェンはもちろん英名:japanese huchen、イトウのことです。国内淡水魚の中でもっとも大型に育ち、数々の伝説も残すイトウ。僕はこの魚に強い憧れを抱いて北海道の地を踏みました。そうして湿原の奥深くに分け入り、腰上までディープウェーディングしてイトウを狙う彼に出逢いました。彼は至近距離で倒木の間にティップキャストでミノーを打ち込み、わずかなトレースコースでイトウを喰わせる。僕はその川の規模からは想像もつかない大きなイトウがミノーを襲う出来事が信じがたく、感動したのを覚えています。それから3年間、彼と釣りをして行くうちにこの釣りの素晴らしさや難しさが分かってきました。倒木や草の覆い茂る狭い湿原の川でミノーをアップクロスにキャスト。水底から大きく体を反転させて追ってくるイトウには捕食の瞬間、ソフトに食い込む繊細で柔らかなティップが必要。しかしながらひとたびイトウがミノーを銜えたならばその繊細さを裏切るような強靱な銅のフッキングパワーが要求されるのです。御存じの通り、従来のロッドにはこう言った極端な設計のロッドはありませんでした。カスケットが北の雄志とともに作り上げたロッド「ルイノス・ヒューチェン」。

河の王よ、時代が流れようとも永遠あれ。

BORON

RHB73HS

Lure weight 5~20g, Line class 8~12LB, GRIP: Double (END 250mm)
 極端なファーストティップアクションデザイン。ミッドからバットはボロンで堅い顎を打ち抜くパワーを執拗に巻き込んだ。ライン強度を最大限に活かし、止めるどころではしっかりと止められるロッドです。専用ロッドソックス付き

※表示価格はスタンダードウッド仕様です。詳しくはP9をご覧ください。



photographed by MN.K

「銘木」シリーズ

カスケットが誇るウッドスペーサーやランディングネットに使用する銘木のラインナップです。国内はおろか世界的に見ても枯渇危惧されるような銘木をずらりと在庫しています。特に瘤材は二度と同じ木目がない満足度の高いグレードです。さらに木の風合いと質感、艶や味わいを深めるためオイルフィニッシュを採用。ウレタンコートされた木の質感と違い磨きを掛けることが出来ます。オプションでフロントウッド、リアウッド、オールウッド等も出来ます。

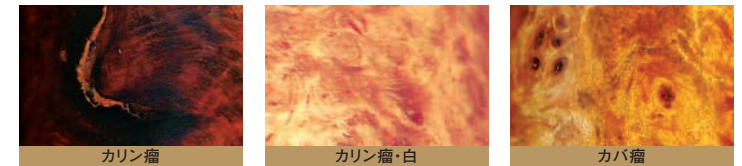
Original Duralmin Triple screw lock



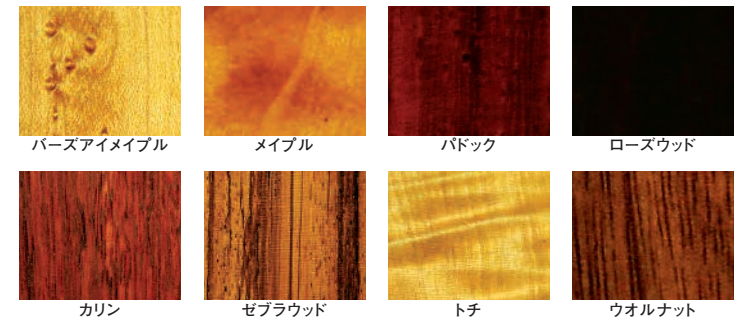
業界初のトリプルスクリューロック。しっかりとアプロックした後に第3リングを抑え、第1リングを下方に回し中央スクリューリングを上下から挟み締めてください。第2(中央)リングはネジなしフリーなので外す時は簡単に外すことが出来ます。

リールシートスペーサー、ランディングネット共通

S.SPECIAL WOOD / SPECIAL WOOD <特別木>

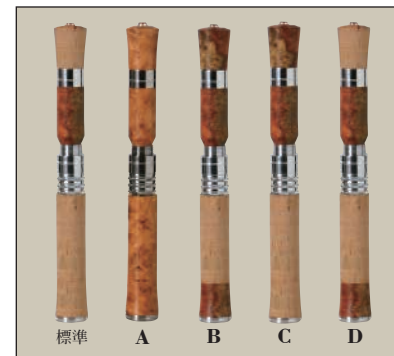


STANDARD WOOD <標準木>

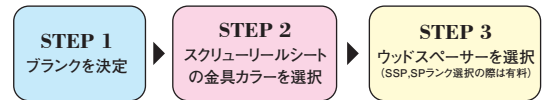


OPTION 仕様	SSP (花梨葡萄杓など)	SP (ニレ瘤、花梨瘤など)
スペーサー交換	プラス ¥0,000	プラス ¥0,000
A. オールウッド	プラス ¥00,000	プラス ¥00,000
B. フロント・リアウッド	プラス ¥0,000	プラス ¥0,000
C. フロントウッド	プラス ¥0,000	プラス ¥0,000
D. リアウッド	プラス ¥0,000	プラス ¥0,000

※オールウッドは6ft以下のロッドのみ対応可能です。6ft以上のロッドはコルクを挟んでのリアウッド仕様となります。



ORDER STEP カスケットオリジナルロッドオーダーの手順



OPTION ORDER



Conclusion

決着という名のネット。

私だけの決着

削りと磨きを終え、「充実感」に満たされて大きく息をついた。エアードスターで木屑を払うと指先が赤かった。指先の指紋が磨耗によって薄れ、ほとんど見えなくなっている。サンドペーパーを直に使う私の、最大のウィークポイントだ。手袋で守るという方法も勿論あるのだが、木の感触を直接感じていたい私には邪魔な存在。平面や曲線、微妙な変化を指先が繊細に拾い、心地良い形に仕上げてゆく。指先は目で察知できない変化を捉える高感度センサーなのだ。

幼い頃、近所の空き地で泥にまみれながら「土の城」を作った。白く乾いた泥を剥がす時の少しこそばゆい独特の感覚が懐かしい。

時は流れ、奇しくも指先の仕事にすべてを捧げる木工職人となった。木を削り、そして磨くとき、指先は思い出しているに違いない。あの「土の城」や指先の「こそばゆい感覚」を。いつものように仕上げの磨きを終え、完成してゆくネット達。私はいつも心地良い「充実感」に満たされる…。

「私だけのConclusion(決着)」の瞬間だ。



MONSTER

BIG TROUT

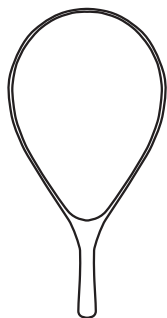
BIG TROUT CURVE

STREAM 30

STREAM 26

STREAM 23

その魚と出逢うのは次の瞬間。
the conclusion comes at the next moment.



MONSTER

サーモンやイトウなどのモンスタークラス狙いの大型タイプ。形状で人気を博したビッグトラウトを継承しながらグリップ長を長めにそして強度も増すよう設計されたモデルです。

全長(グリップ込み)78cm
ネット部(縦52/横39cm)ネット深さ85cm
参考・鱒族対象サイズ60~100cm

S.SPECIAL WOOD
SPECIAL WOOD
STANDARD WOOD



BIG TROUT

本流域スタンダードのストレートタイプ。40~60cmクラスの魚を獲るための必要最低の要素が詰まっています。移動に大きすぎず斜めに掛ける必要もありません。そして黄金比を突き詰めた形状はトラウトファンなら1本は持っていたいモデルです。

全長(グリップ込み)60cm
ネット部(縦40/横30cm)
参考・鱒族対象サイズ40~60cm

S.SPECIAL WOOD
SPECIAL WOOD
STANDARD WOOD



ひとつの美しい決着。
a beautiful conclusion.



BIG TROUT CURVE

ストレートビッグトラウトと同サイズで遊びを利かせたカーブタイプ。グリップがカーブすることによってランディングしにくくなるデメリットもSTREAM30で得た「リ・カーブ形状」で克服。よりコンパクトに仕上がりました。

全長(グリップ込み)60cm
ネット部(縦40/横30cm)
参考・鱒族対象サイズ40~60cm

S.SPECIAL WOOD
SPECIAL WOOD
STANDARD WOOD



STREAM 30

中流域(尺クラスメイン)のカーブタイプ。小型ネットでは心許ない大物狙いのアングラーにオススメするネットです。カーブタイプですがStream26よりもゆるやかなカーブデザインに仕上げられています。

全長(グリップ込み)45cm
ネット部(縦30/横25cm)
参考・鱒族対象サイズ~50cm

S.SPECIAL WOOD
SPECIAL WOOD
STANDARD WOOD

撮影協力: ゲストハウスゆうあん
01548-2-2977 www.uan.ne.jp

もう少し傍に・・・出逢えた喜びに感謝。
after conclusion photograph time



STREAM 26

渓流域スタンダードのカーブタイプ。大物のランディングはもちろんですが 狙いは美しい渓魚を獲るためのフレームです。ネット部の全長は26cmなので渓流のアベレージサイズを美しく演出することが出来ます。

全長(グリップ込み)39cm
ネット部(縦26/横24cm)
参考・鱒族対象サイズ~40cm

S.SPECIAL WOOD
SPECIAL WOOD
STANDARD WOOD

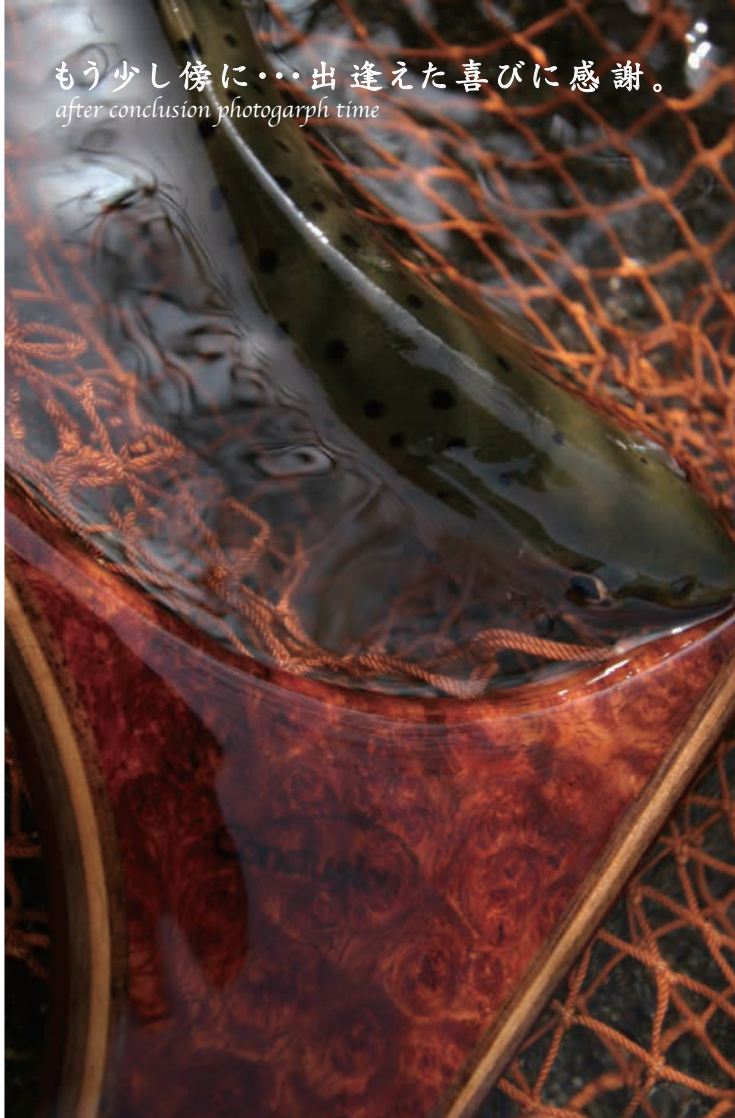


STREAM 23

溪流スタンダードにサイズダウンモデル登場。実は模様的美しさをもっと見せるのは幼魚斑(バーマーク)の濃い23cmくらいなのかも知れません。小さなヤマメを美しくフレームングし、まあまあのサイズは欲張りに写真に収めることが出来そうです。(笑)

全長(グリップ込み)32cm
ネット部(縦23/横18cm)
参考・鱒族対象サイズ~30cm

S.SPECIAL WOOD
SPECIAL WOOD
STANDARD WOOD



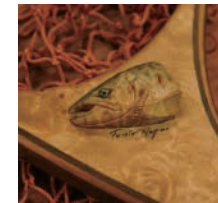
「銘木」シリーズ

木材の高級部位である瘤材を惜し気なく使い、木の風合いを大事にオイルフィニッシュを提案したコンクルージョン。ウレタンフィニッシュに比べ防水性能は落ちるもののメンテナンスする楽しみをこのネットは与えてくれました。意外と長い溪流のシーズンオフにこのネットはあなたの部屋のインテリアとしても活躍してくれることでしょう。人気の瘤材(SSP,SP)は2度と同じ木目がない個性豊かな素材です。紹介写真はあくまで一例とお考えください。SSPランクはグラデーションネットが標準設定です。

「彫魚」永井文雄

彫魚作家、永井文雄とのスペシャルコラボレーション。グリップ部を大きく取ったデザインのコンクルージョンに彫魚を取り付けるオプションもあります。ここまで贅沢なランディングネットはそうありません。

1体:¥00,000~



ブローチ / 1体¥00,000~
永井文雄の彫魚ブローチや壁掛け製作も承っております。【要相談】

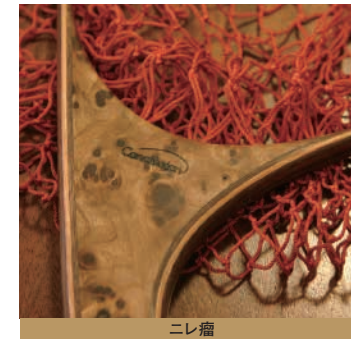
S.SPECIAL WOOD / SPECIAL WOOD <特別木>



花梨葡萄空



ブラックウォルナットパール



ニレ瘤



カバ瘤



カリン瘤

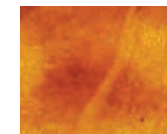


カリン瘤・白

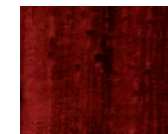
STANDARD WOOD <標準木>



バースアイメイプル



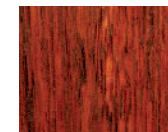
メイプル



パドック



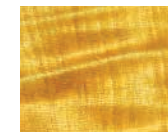
ローズウッド



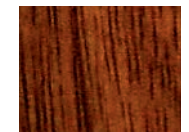
カリン



ゼブラウッド



トチ



ウォルナット

と き
無になる瞬間

ボンッ!

その水柱は静寂を破り、大魚の勝利の証となるはずであった。しかしだ。

彼が獲物と思っていたモノは「罌(擬似餌)」だったのだから、彼の怒りや落胆は計り知れない。

その大魚は今より渾身の力を持って抵抗を試みる。

この瞬間ばかりは何度つりをやっても1匹や2匹でもなく、魚の種類も雄か雌かも、大小、重さも関係なくてつり人の「心が無になる瞬間」だ。

たとえ悩みや苦しみ、病氣、怪我、持病、ストレス、はたまた幸福の絶頂にあったとしてもこの瞬間は訪れる。

僕はこの瞬間を他にも探してみるが未だ他に見当たらないのだ。



銀黒レッドベリー



金黒レッドベリー



アカメ



アユ



若アユ



ブルー&
グリーンバック



パーチ



金赤レッドベリー



ヤマメ



バルサトラッドは後端・固定ウエイトとセンターのシャフトウエイトで絶妙なバランスを取り、重心移動ミノー並みの飛距離を実現。ローリング軸を乱さない本流仕様バルサ製ミノーです。スローローティング。ローリングアクションを主体に水流の強い流芯でも飛び出さないハイバランス設計。そしてバルサの高浮力でキビキビと低速でも泳ぎます。なによりも拘ったのは安定したタダ巻き時のナチュラルローリング。喰わせる!と思った瞬間、サカナに迷いを与えません。



何度となく、調整を重ね
 姿、形を変えていくバルサトラッド達。

※昨年は発売にあたり度重なる延期で皆様に大変失望させて申し訳ありませんでした。来季に向けては順調な年間計画生産を予定しておりシーズンオフからリリースしたいと思っております。皆様にはこの場を借りてお詫言申し上げます。

BALSA TRAD 58 F
 58mm,4g,Floating,COLOR 全9色展開
BALSA TRAD 78 F
 78mm,7g,Floating,COLOR 全9色展開

素材/バルサ材
 カラー/全9色展開
 サクラマス、サツキマス、本流ヤマメ対応の太軸ワイヤー採用

魚との境界線を繋ぐ



TROUT PLUGGING



騙す動作を完璧にするなら操るミノーがどこにあって、どちらを向いているかが分かなければゲームは成立しない。より刺激的なミノートラウトを極めるアングラーならばこのラインにご納得頂けるはず。プレッシャーでナーバスになったトラウトに色付きのライン?と首を傾げる方はその操り切れていないアクションをまずは疑うべきです。もちろんプラグギング専用ラインとしてなじみの良いしなやかさと高強度を実現しています。まさにトラウトプラグギングに最高のオリジナルラインです。

LB/直径(mm)	100m	300m
3LB / 0.148	¥0,000	¥0,000
4LB / 0.165	¥0,000	¥0,000
5LB / 0.185	¥0,000	¥0,000
6LB / 0.205	¥0,000	¥0,000
8LB / 0.235	—	¥0,000
10LB / 0.250	—	¥0,000
12LB / 0.275	—	¥0,000

※お得な300mは50m毎にマークシール付ききっちり欲しいメーター数が取れます。12LBのみ50mピッチのシールではなく100m,150m,200mでシールを入れています。お間違いの無いように願います。

Casket original hunting cap



Balvenie
素材:Wool Size/adjustable



Long morn
素材:Cotton Size/Free 59cm



WOOD BOX

OILED WOOD BOX

170×105×39h mm
銘志:全5種類 桧縮歪・たも玉歪・ゼブラウッド・花梨・バースアイメイブル
縦2・3・4分割可能スリットと9cm以上のミノー収納用横2分割スリット付き



WOOD LINE UP



銘志:全5種類



SINGLE MINNOW CASE 「DISPLAY」

素材:スチール 外寸:200×112×27h mm
刻印タイプ・サクラマス+刻印タイプ
高級ムートン使用



ARTS OF STREAM EMBLEM

SIZE/90×30 (mm)
Color/GREEN,RED,YELLOW,BLUE



CASKET LION PINS

Color/GREEN,RED,YELLOW,BLUE
七宝焼きと最先端技術を駆使して作られた小さいのに雰囲気のあるピンです。



ORIGINAL ROD & WRISTPROOFBELT

左右1セット、2本入り



ORIGINAL LEATHER NET BAND



photographed by Yutaka Miyazawa & Osamu Kayama (Fishman)



バスを狙うのにパワフルな
トップウォーターもするく
せにクワイエットなフライ
への挑戦とは、まだ少し背
伸びの行為だったり、強か
で欲張りなわがままかもし
れない。
しかし、なんと言われよう
が僕のフライへの興味は沸
き起こってしまっただし、フ
ライラインが描くループの
軌跡にすっかり魅せられて
しまったのだ。



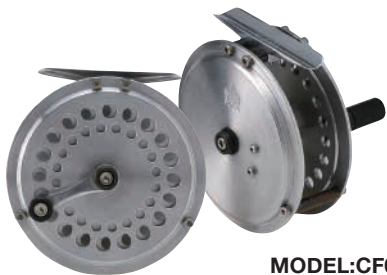


Bass Fly World Casket Style

フライタックルで魅せられるのはこのフライリールのシンプルな美しさにある。ラインを保持しておくための機能のこの丸いリールは何百年経った今も変わることはない。それだけにデザインの自由度は求められ、それぞれに個性を放ってきた。カスケットのフライブランド「リーディングエッジ」は実は一人のビルダーの手によってハンドメイドされています。金属を知り尽くした彼だからこそ、メッキやアルマイトには頼らずあくまで経年変化を楽しめる無垢金属の磨きや腐食技術で個性を出していく。このリールを手にしたらフライの世界の扉は無限に広がりを見せはじめるはずですよ。



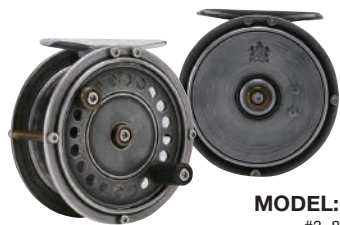
MODEL:CF013
#9-12 PH.#9/10



MODEL:CF009
#3-8 PH.#6/7



MODEL:CF018
#5-12 PH.#6/7



MODEL:CF017
#3-8 PH.#5/6



MODEL:CF006
#5-8 PH.#6/7



MODEL:CF007
#3-8 PH.#6/7



MODEL:CF012
#5-8 PH.#5/6



MODEL:CF002
#3-8 PH.#6/7



MODEL:CF019
#5-8 PH.#5/6



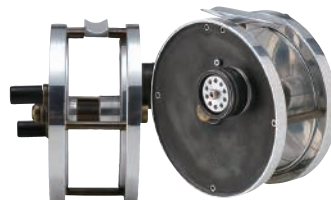
MODEL:CF016
#3-8 PH.#5/6



MODEL:CF008
#3-8 PH.#6/7



MODEL:CF011
#5-8 PH.#6/7



MODEL:CF014
#5-12 PH.#9/10

カスケッでは2006年、トップウォーターのプラグフライでバスを狙う新たなバスとの楽しみ方を提案しました。フライキャストなどの優雅さはもちろん直接手でラインを手繰るハンドリトリブでのバスとのやり取りを楽しむスタイルはこれまでリールでしか釣りをしたことがない方には驚きの世界だと思います。おまけに時期やその湖の食性にもよりますが「虫・昆虫」を捕食するバスにとっては絶大な釣果効果を上げます。大きなプラグにすればバスにもプラグフライは有効です。カスケットのロッドは今までの鱒ねらいのフライロッドの流用ではロッドの長さやパワーにおいて不満を感じていました。そこで「ディアバス」のショートレンジでハイパワーなバス専用のフライロッドを開発。これでフワーターやカヤック、カヌーなどから快適にバスフライを楽しめるようになりました。

Dear bass

dearbass Blank Color lineup



dearbass #777
Length 7'7", line #7-8

#777は7'7"。フライライン#7-8をしっかりロッドに乗せられるバスフィッシングコンセプトのフライロッドです。多くのトラウト用フライロッドの#7.8対応ロッドは9'近いレンジですがショートレンジで精度を求めて楽しむバスフィッシングには長すぎました。少々の風でもフライゲームを可能にしボリュームのあるプラグフライをしっかりキャスト出来る最低限で最高のスペックが#777には盛り込まれています。



dearbass #666
Length 6'6", line #5-6

フライキャストになれてくると、ほんの少しタックルパワーを下げたくなるのが釣り人の性。#777のパワーゲームでバスフライを覚えた後はこのロッドでフライの腕をさらにステップアップしてください。#777ほどの強引なゲームは出来ませんがダブルフォールのタイミングをしっかり掴んだアングラーならば、そうキャストに苦労はしません。もちろんヒットしてからバスとの優雅なダンスが十分楽しめます。



「うわあ～、まるでカウボーイの投げ縄みたいやね～。」

私の嫁がおもむろにそうつぶやいた。

その日私は嫁を伴い、隣県の山間にひっそりとたたずむ小さな池に釣りに出かけていた。彼女は日焼けを嫌いカヌーの上で日傘を差して読書に耽っていたが、私がフライロッドを振りかざしラインにループを作り始めると本を置き、そうつぶやいたのだった。

瞬間、私はその比喩表現に軽い違和感を覚えた。英国貴族によって楽しまれてきたスポーツとしての歴史を持つフライフィッシングを、アメリカの西部開拓時代の歴史でもあるカウボーイの投げ縄に喩えられ、そのイメージの違いに両者をダブらせることが出来なかったのである。

しばらくすると、彼女はまた本を手に取り読書を始めた。私は先程の一言に気を奪われつつも、ポイントめがけてラインを放ち続けた。カヌーの進路は穏やかな風に任せた。

ふと思った。

「カウボーイの投げ縄、まんざらの外れな喩えでもないな…」と。

私はカヌーに乗り込み、ブラックバスという実にアメリカンな魚を標的に、フライラインを操りループを放つ。カウボーイは馬に跨り、放牧する牛の後足を標的に、ロープを操りループを放つ。似ているではないか!もしかしたら、フライラインを操る力学的要素もロープのそれに似ているのではないだろうか?

フライフィッシングビギナーである私のキャストイングは至って未完のものであるが、稀にうまくいくことがある。たまたますべてのタイミングがうまく合い、ロッドを持つ手とラインを持つ手にしっかりとテンションを感じつつキャスト。そういう時は驚くほどラインが軽やかに滑り出していく。これが実に心地よい。

「フライフィッシングの魅力」は魚を釣ることはもちろんだが、この「キャストイングの習得」という部分においても大きなものではなからうか?フライの大きさやラインの種類、テーパーリーダーの長さや太さの調整、風向きなど、そのわずかな違いがキャストイングを大きく変えるから更に面白い。ルアーフィッシングのそれよりもずっと奥が深いのだ。

キャストイング以外にも「フライフィッシングの魅力」はたくさんある。コルクを削ってポッパーを作ることだったり、ラインを手練り魚とのやりとりを楽しむことだったり、その世界は今の私にとって広大な未開拓の分野なのである。私はその開拓を、実にのんびりと楽しんでるのだが「開拓する」という部分においては、広大な土地を目指し未開拓の土地を「開拓」していったカウボーイに、これまた似ているではないか!(笑)

しかし決定的に違う部分、それは、「私は遊び、彼らは仕事」であるということだ。

同伴した嫁の何気ないつぶやきのおかげで、くだらないことを色々と考えながら釣りをしてしまった。残念ながらこの日はバスに出会うことは出来なかったが楽しい時間を過ごせた。実に平和でのどかな休日。

「魚釣りと一緒にしないでくれ!」

カウボーイたちのつぶやきが聞こえてきそうである。



カヌーの名「ギリー」の由来はスコットランドのフィッシングガイドの呼び名です。

美しい川で釣りをさせることはもちろん、食事や季節の楽しみも案内する

彼等のこだわりのサービス精神に由来したものです。

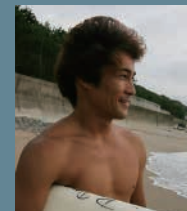
たくさんの楽しみを載せて湖上での優雅なひとときをこのカヌーにガイドを申し付け下さい。



週末カヌーライフ

週末のアウトドアの遊びとしてカヌーイングは僕にとって釣りの最高の手段であると共に、子供達や友人との関わりで多くの楽しみや豊かさを与えてくれました。カヌーで過ごす時間は特別な時間なのです。滑る湖面に手をかざせば心が落ち着く。引っ掛かったルアーを取りに木々のトンネルに入ればそこは別世界でした。

ギリー製作者の横顔 / NATWUS & CLAP



NATWUS:
AKIHARU KONISHI

海が好きで糸島に住み着いてしまったサーファーFRP職人。曲線に機能と美しさをみるのはサーフボードと共通するモノがあるという。



CLAP:
NAOKI YAMAMOTO

当店のウッドボックスも作るヤマモトの家具技術はカヌーの仕上げにおいても一役買っている。普段は優しく気のいい彼も木を扱う時は話しかけることが出来ないほど真剣。

Gillie 131 ギリー-131

length/13ft width/40inch weight/25kg前後

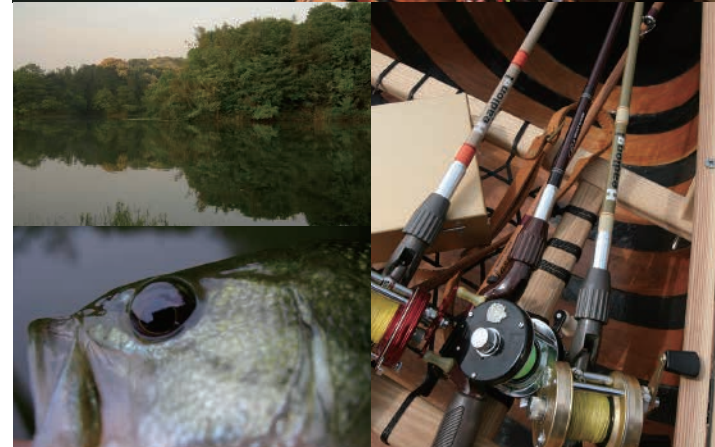
color/全4色 ※オーダーカラーも検討しています。

NAVY	MOSS	SCARLET	IVORY
------	------	---------	-------

つりやアウトドアの楽しみを幅をもっと広げようとカヌースタイル提唱をしてきたカスケードでしたが、ついに国産でFRPとウッド張りのカヌーを製作・発売に至りました。FRP&WOODカヌーで名高いナバロと比べても軽量で雰囲気が良いことと国内生産ゆえメンテナンスが容易になりました。絶妙なカヌーの外郭のライン出しはサーフボード製作も手掛ける職人が一つ一つをハンドメイキング。内張りのウッドは家具職人が担当するという贅沢なカヌーです。主にルアーフィッシングやフライ、ネイチャーフォトなどを楽しんでいただける様、横幅を最大限(98cm)広くとった設計。単独ならばカヌーの上で立つ事も可能なくらい安定性を向上させています。

つりに遊び心を 教えてくれた魚

誰もバスフィッシングを知らない奴に説明する時、「こんなルアーで釣れるんだぜ！」って魅せるのはワームでもスピナーベイトでもなくトップウォータープラグかも知れない。釣るまでは信じがたい意外性の(そんなには釣れない)反面、遊び心は最高峰。そして陽気な笑顔が似合う釣りなのだ。



ヘヴィゲイジシリーズは太いブランクなのが特徴。トラウトが繊細さを表すならばバスは豪快であって欲しい。そんな拘りからヘヴィゲイジ・ブランク開発はスタートしました。元祖ヘヴィゲイジは力強いキャストとフッキングを重視して作られ、そのイメージから今回「HEADLONG:猪突猛進」というサブネームを追加。と言うのも元祖モデルから少し力を抜き、ペンシルベイトなども扱いやすくなった「クラシック」モデルを今年度から追加したからです。これでヘヴィゲイジシリーズはあらゆるトップウォーターシーンに対応出来るようになりました。

HEAVY GAUGE HEAD LONG

カーボンポジットのグラスブランク。10Zクラスでも低い弾道で思いっきりキャストが可能。ノイジーやダーター使用時の確にアクションがつけられて瞬時のフッキングが可能です。

HG-HL52 [Length 5'2"ft Lure weight 5/8-1oz.]

HG-HL56 [Length 5'6"ft Lure weight 5/8-1oz.]

HEAVY GAUGE CLASSIC

グラス100%のベンディング綺麗なブランク。HEADLONGで得たキャスト性能を維持しつつ、ペンシルベイトのアクションを弾かない絶妙な柔らかさ、優雅さを追加。ロッドを握り変えた時に気分まで変えてくれます。

HG-CL52 [Length 5'2"ft Lure weight 5/8-1oz.]

HG-CL56 [Length 5'6"ft Lure weight 5/8-1oz.]

HEAD LONG Blank Color lineup

モスグリーン

ベージュグレー

CLASSIC Blank Color lineup

クリアブラウンレッド

オレンジタン



Let's fish
simply!



Casheet.



娘はおてんばにしておく!



僕らの釣りの原点は遠い昔の少年時代、父から習ったこんな単純なエサ釣りからのスタートしたのだった。ウキが水中に消し込み、「ドキ!」とする興奮は今のルアーフィッシング、特にバスのトップウォーターのそれと同じである。子供と一緒に釣りをするならず、こんな竿を一本持って行くことをお勧めする。これなら子供達も夢中になります。釣り好きな方へのプレゼントにも喜ばれることマチガイナシです。

振り出しロッド “Simply”

お揃い柄のウキ2本、ロッドソックス・セット、5色展開



釣文

釣り人の思索の行方

つりは釣れない時間が大半。だから思索の時間でもある。躍動の前の沈黙。夜明け前の闇。こうした時間があってはじめて「釣り」と言えるのだ。



凄まじい忙しさが続いたここ数週間。僕は居心地のいい地下のバーで、シングルモルトのオンザロックを飲んでいる。そのウイスキーは、子供の頃、届け物を頼まれたとき「ありがとうね」と近所のおばさんからご褒美でもらった飴玉のように甘く口の中に広がり、スキップしながら熱く喉を走る。ロックアイスが溶け、魚体がまだ見えない水面のようにウイスキーが揺れた。久しぶりに明日はブラックバスと遊ぶかな。本格的な梅雨入り前の静かな止まない雨が路面を覆う。ワイパーをスローインターバルにセットしてインターチェンジに向かう。カートップのカヌーの船首からポタポタと雫が落ちる。平日の雨降りの湖は真冬の森のようにしんとしている。お気に入りのハンターブーツに足を通し、静かにカヌーを湖面に滑らせる。雨に濡れた木々の緑は怖いくらい鮮やかな風景。リズムカルにドックウォークを繰り返すペンシルベイトに最初の友達が「遊ぼうよ」と誘ってくれた。梅雨前線を押し上げる低気圧が運んでくれたのは音のない雨だけじゃなく、静かな休日と僕の友達。素敵なお雨の国。雨という魔法のフィルターは全てを深くする。時間。色。感性。嫌いだった雨降りが好きになったのは間違いなくキミのおかげ。



雨降りのむこうに見えるもの
Text & Photographer/Nobuyoshi Okabe



Takashi Sano@Jellyfishcafe

安っぽい言葉では語れない深山幽谷の凄みだ。
 アングラの視点で眺めた場合、滝は絶好のポイントでもある。
 酸素を集め、餌を集め、魚を集める。
 しかし、滝でのほとりの釣りはそんな記憶の背景からなのか、
 いつもどうも落ち着かない。
 本当は入ってはいけない「領域」にこっそり入って釣りを
 させてもらっている。
 そんな気分になる。

「領域」

瀬や淵に無心でルアーを打ちながら道なき溪を遡っていくと、
 突然小さな滝が現れることがある。
 そんな時いつも我に返るような感覚に襲われる。
 子供の頃、釣りの漫画で森の中の滝に棲む怪魚の話を読んだ。
 深い滝壺に竜のように頭に角が生えた巨大な岩魚が棲むという
 その話の持つロマンは凄まじく、子供心に体が痺れるような
 畏怖と興奮を覚えたものだ。

結局、漫画の大岩魚の角にはちゃんとオチがあつたのだが、
 鬱蒼と茂る緑の中で滝を見ているとそんな神話めいた魚が
 姿を現してもおかしくない気がしてくる。

現世じゃなくあちら側に近い、なんて言うのと少々大袈裟だけど、
 滝にいて感じるのは「森林浴」とか「マイナスイオン」なんて

「きつとあの日から？」

「親子で釣り、いいですよ〜。」
 よく言われる言葉です。
 あの頃は忙しく、子供と遊ぶことがなかなか出来なかった頃、
 「今度からなるべく休み作るよ。ところで何したい？」
 「バス釣り!？」
 訳の分からないまま始めたバス釣り。
 親子でもライバル、子供に負けてられませんよね。
 どうだ、オヤジ釣るだろう、悔しいか、釣ってみろ。
 その日から十数年よきライバルであること。
 これが楽しいのか、いつかオヤジを超えてみる。
 もうとっくに超えられたか、(悔しいのか、嬉しいのか)
 オヤジが教えること、
 「こんな生き方してますよ、背中みてるかなあ〜」
 同じ価値観、同じ趣味、トップウォータースタイル&ウッドのカヌー。
 私達親子の拘りで、人生格好良く生きてやれ、そして楽しんで。
 きつとあの日から始まったのでしょうか。



photographed by Hiroshi Teshima, text by 木下おやじ

Ruino Huchen

幼少の頃から慣れ親しんだ褐色の河に、初めて金属製の疑似餌を投げ込んだときのことを今でも鮮明に記憶している。イトウという魚を見たことがなかった自分が人伝に聞き脳裏に形づくられた魚は、そのときはまだ幻影でしかなかった。河に立つこと。水に触れること。風を感じる。釣れなくとも、ルアーの動きを眼と手で感じる。それらすべてが楽しいひとときだった。長い冬を越し春がやってくる。北の植物たちがいつせいに花を咲かせる。ロッドを握り締め、温原の河岸を歩き、覚束ないキヤステイングで未だ見ぬ魚を追う。そして、人生で初めてイトウを掛けたときというよりは、自分の足元に横たえた魚を眼にしたときようやくそれを実感した。銀色の魚体、分厚く堅い顎、大きな尾びれ。なにもかもが鮮烈だった。

それからというもの、学校帰りの数時間は河で過ごす日々。キヤストを繰り返す、少しづつキヤストの形が出来上がってきたが、イトウはなかなか現れない。フィールドに向かうたびに歩く範囲は広くなっていた。雨の日も小雪舞う寒風の日も、自転車で行けるところならどこへでも走った。あのイトウという魚がそうさせたのだ。

釣りに使う道具にも拘りはじめ、その楽しさはすっかり自分の趣味になってしまった。日本製の道具よりも、スウェーデン製やアメリカ製のルアーやロッドに憧れ、使っているだけで釣れそうな錯覚さえ覚えた。しかし、魚のいる場所を知らずしてどんなによい道具を使ったところで、それを掛けることはできない。そう思うと、これまでの行動範囲から脱し、河の上流から下流までを探るようになった。

長年釣りをしている、この河の様々な変化を観ることができた。冬の結水、春の雪代増水、夏の台風豪雨、秋の長雨によって、流れに変化が生まれる。極端なときは、大きな淵が翌年の春には瀬になっていることもある。これは大地ができ河が流れはじめてから毎年繰り返される自然の摂理であり、河を歩く楽しみにもなっている。

長く釣りをしていると、遅かれ早かれ自分のスタイルというものが出てくるもので、自分が今のスタイルに落ち着いたのは、疑似餌釣りをはじめて20年という年月で、ごく最近のことである。いままで感じてきたことは、自分の想いを力タチにできたなら、それは昨今生まれたわけではなく、釣りというものを好きになつたときからどこかに描いていたような気がする。その想いを取り入れて形に表して、くれる人物と偶然にもめぐり合う。ロッドやルアーの基本コンセプトを基軸に、自分の想いをモデリングしてくれる。そして実際に形になった道具たちを手に、フィールドで思い描くように駆使し、その感想を素直に伝える。ロッドでいえば、テップは最高の感触。しかしバットはもっと堅牢であつてほしい。自分がその道具から感じた思いを伝えると彼は徹底的に考えてくれた。彼の物作りのセンスは、自分の釣りに求める想いに光を与えてくれるものだった。そして出来上がった道具たちと釣りを共にすることで、自分らしさを表現でき、誇りに思えるのである。彼との出会いで道具に対する迷いはなくなつた。今のスタイルを納得している。

温原を歩き、そこに生息する花や木々を眺め、河へたどり着くというも思つてことがある。いつまでイトウという魚を追い続けることができるのだろうか。魅力があるから追い求めるのであり、その種がいつか絶えてしまふ懸念も拭い去れないまま、釣りを続けている。自分はどうなかに釣りが好きで、イトウが絶えてしまったとしたら、釣りをやめるだろうか。ほかの魚には持ち得ない魅力があるから。イトウいまはその魚とコンタクトできることが稀有なこととなりつつある。我々釣り人は、その真実を釣りという手段で認知し、明らかにしていかなければならないと思う。いつかその種が絶たれないように、いましっかりと見守らなければと節に願う。釣り人にはそれができるのだから……。





バス釣りをしている人なら誰でも夢見る50up。確かに本や噂、他人が釣ったのは見たこともあるのに僕はどうしても手にすることが出来ません(泣)
いつも49cmや48cm…あと1cm…。

どんなに伸ばしても、引っ張っても50cmを超えてくれないのです。

そこで自分なりに考えてみた…。

まず性格。なんともおっとりした僕の性格。釣り場に着いてから持って行くルアーを選んだり、1回で済むタックル運びを忘れ物して何回も行ったり来たりするし、挙げ句の果てにはカヤックのパドルを忘れてたり…。よそ見している間にバスが喰っていたり…。

これじゃあ50up君の釣れるゴールデンタイミングを逃すに決まってる(汗)

そして次に思い当たる事は「運」。これは努力しても身に付くもんじゃない。

小学生の頃、「ウルトラマンセブン」のカップアイスクリームで5回連続で当たった事があるけど、その時運を使い果たしたようだ(その後お腹を壊したのでそうとも言えないが…)

僕にはどうして50upが釣れない…

text by Takuya Saito

そして僕が考える最大の理由。

それは雨男ならぬ悪天候男。正直これには自信がある!(笑)曇り空なのに家から1歩外に出ると雨が降り出すし、僕も最近気づいたんですが、僕が主催のイベントの日は決まって天気予報は降水確率80パーセント以上。そうかと思えば中止にした途端、雲は流れて晴天へと変わる。まさに天気予報士泣かせ。これは絶対日頃の行いが悪いからに違いない!

たばこ?...ほどほどに吸おう。

お酒?...これも最近はお付き合い程度(お付き合い程度ってどれくらいだろう?)
夜更かし?...いやこれも「今日中」には布団に入るようにしている。

だとすれば他に考えられることは…まさか!?女性!?いやこれはまず有り得ない(笑)
(笑い事ではない)

しかし、よくよく考えてみると、この僕の中途半端さが49cmという中途半端さを生んでいるのかも知れない…。

そこで僕は考えて見た。僕には50upは似合わないのかも知れないと。

もう50upなんて望まない!小さなバスだって立派に自慢出来るんだ!!

よ〜し!!こうして謙虚にしておけば…(ふふふ)

来年をお楽しみに!

CASKET AMBASSADOR



Shigetoshi Nakajima

CASKET AMBASSADOR



Keijiro Nishi

CASKET AMBASSADOR



Masami Miyamoto

CASKET AMBASSADOR



Ryo Nakatsuka

CASKET AMBASSADOR



Riverruns K

CASKET AMBASSADOR



Takahiro Matsumura

CASKET AMBASSADOR



Michiyo & Yasuyoshi Namiki

CASKET AMBASSADOR



Toshiyuki Koyama

CASKET AMBASSADOR



Shinichi Nagamori

CASKET AMBASSADOR



Hiroshi Takamizu

CASKET AMBASSADOR



Younosuke Ohashi

CASKET AMBASSADOR



Kazumi Morizono

CASKET AMBASSADOR



Kouji Endou

CASKET AMBASSADOR



Yuichi Honda

CASKET AMBASSADOR



Kensei Fujita

CASKET AMBASSADOR



Hidegori Mikamiyama

CASKET AMBASSADOR



Yoshiharu Kamiya

CASKET AMBASSADOR



Youichi Shinoda

Isamu Tsuneyama, Kenji Tomita, Tadaaki Chiba, Ken Moriwaki, Takehiro Kiko,
 Syoujiro Yoshino, Katsuyuki Chiba, Kazuya Sugawara, Teddy Saito, Masahiro Gotou
 [Special thanks] Shinya Amano, Satoshi Imai, Sano @ Jerryfishcafe, Yuichiro Ishida
 Kouki Murakami @ UAN, Ken Kawamura, Natsuki Sakurai, Yutaka Miyazawa,
 Katsuya Iwasawa, Osamu Kayama @ Fishman, Fumio Nagai

CASKET AMBASSADORについて

カスケットではユーザー様の投稿をお待ちしています。投稿頂いた画像は審査の上、ホームページまたはカタログ、広告に採用させて頂き、採用された方々をカスケットアンバサダー(大使)に認定致します。認定された方には下のワッペン(3色いずれか)を送付させて頂いています。現在対象はトラウトのみですが07年度には新たなカスケットアンバサダーの枠も検討中です。カスケットはスタイリッシュなユーザー様に支えられ、これからも少しづつ歩んでいきたいと思ひます。

デラックス(黒金)

シルバー(黒銀)

スカーレットゴールド(赤金)



[応募対象魚]

■ 送付ワッペンの種類

サイズは自己申告です。その基準は計らない方も多し写真を見れば分かりますよね?

■ デラックス(黒金)

サーモン、イトウ・クラス90cm以上・サクラマス、レインボー、アメマス・クラス65cm以上・サツキマス、ヤマメ、アマゴ、イワナ・クラス40cm以上

■ スカーレットゴールド(赤金)

サーモン、イトウ・クラス70cm以上・サクラマス、レインボー、アメマス・クラス50cm以上・サツキマス、ヤマメ、アマゴ、イワナ・クラス35cm以上

■ シルバー(黒銀)

上記以外の対象魚で投稿頂いた方。写真が素晴らしい風景のある風景でも可です。

自然とのコンタクト。

text,photographed by Satoshi Imai

学生時代からの気心の知れた友人達と知床の道の果てにやって来た。今日の宿は駐車場に停めた愛車。つまり車中泊である。実践投入するルアーをいじり、フックをチェックしながら明日の釣りに思いを馳せ、酒を飲む。遠征先では毎度の楽しい時間。

カラフトマス *Oncorhynchus gorbuscha*。英名 PINK SALMON。生まれてから2年きっかりで回帰してくるこの魚。隣り合う年の魚とは遺伝的な交流がないという、不思議な生態的一面も持っている。この魚を求めて毎年、道内各地はもとより日本全国から釣り人が集まる。狙うは豊饒の海の栄養を蓄えて、帰ってくるフレッシュラン。その引きを味わった釣り人は病みつきになる。

8月14日、午前3:30。不安と期待を胸に渡船に乗り込む。辺りはまだ暗い。出航して30分ほど走っただろうか、朝もやの向こうに目的地が見えてきた。蒼くぼんやりと見える光景は断崖絶壁。まさに山が海に迫るという表現がぴったりの場所だ。ここが憧れの地か。

なんという所だろう。朝陽に照らされた光景を見て、正直にそう思い溜息が出た。険しい斜面が迫る小河川が流れ込むワンド。急斜面には曲がりくねったダケカンバ森、海の岩礁帯の造型が自然の厳しさを物語っている。

上陸して準備をしていると、先の上陸した釣り人のロッドが綺麗にになっている。ファイトを存分に楽しんでランドされた魚は見事な60cmオーバー。魚はちゃんと居る。ラインシステムを作る手に力が入るが、一方で早く釣りたい気持ちで手元の作業も焦る。

どんなルアーで釣ってやろう。ここに向



かう車中で色々と考えた。ルアーは沢山持ってきたが、攻め方は整理できていなかった。海アメと同じようなミノーやジグを使ったパターンは通用するのか? それとも昔から慣れているスプーンで釣りで手堅く攻めるか? まずは1尾釣れたかったのでスプーンに手が伸びる。丸4年振りのカラフト釣り。早く1尾掛けて感覚を取り戻したい。始めてすぐにコツコツというアタリが手元に伝わってくる。ラインがカラフトの群れに当たるためか? ガヤ(エソメバル)のいたずらか? しっかりとしたアタリを捉えるまでスプーンを一定の速度でリールグする。ついに来た! 掛かってから猛然と沖方向へ走る。ロッドが大きくしなり、ドラグが出てゆく。寄せては走られを繰り返し、何

度目かに勝負に出る。差し出したコンクルージョンBIG TROUTに吸い込まれた魚体は70cmに迫る立派な雄だった。幅広の魚体だったが、コンクルージョンの枠の曲線は不安を全く感じさせなかった。これを釣りたくてここまで来たんだ。ネットの中で横たわる魚と周りの景色に見とれ、釣り師としての幸せを噛み締めた。こんな大自然の中で自然と対峙する、釣りでなければできない自然とのコンタクトだ。知床から帰ってきた今では、この時の写真を見ながら酒を飲むのが一番の贅沢な時間になっている。ランドした魚の傍にはコンクルージョン。思い出に残る物造りは素敵だと思う。

はれの日

2006年 夏のかわたれどき
誕生した息子の第一声を聞いた
全身から沸々と力がこみあがって
今までにない感覚が襲う
その時間はずっと 記憶される

新たな船出だ
雨や嵐の日があってもいい
いつの日にか伝えよう

頬をなでる四季の風の感触
四季のにおい
パドルを漕いで近くで感じよう

いつの日にか伝えよう
あわたらしい 日々の営みと同じ瞬間
もうひとつの時間が
確実にゆっくと流れていることを

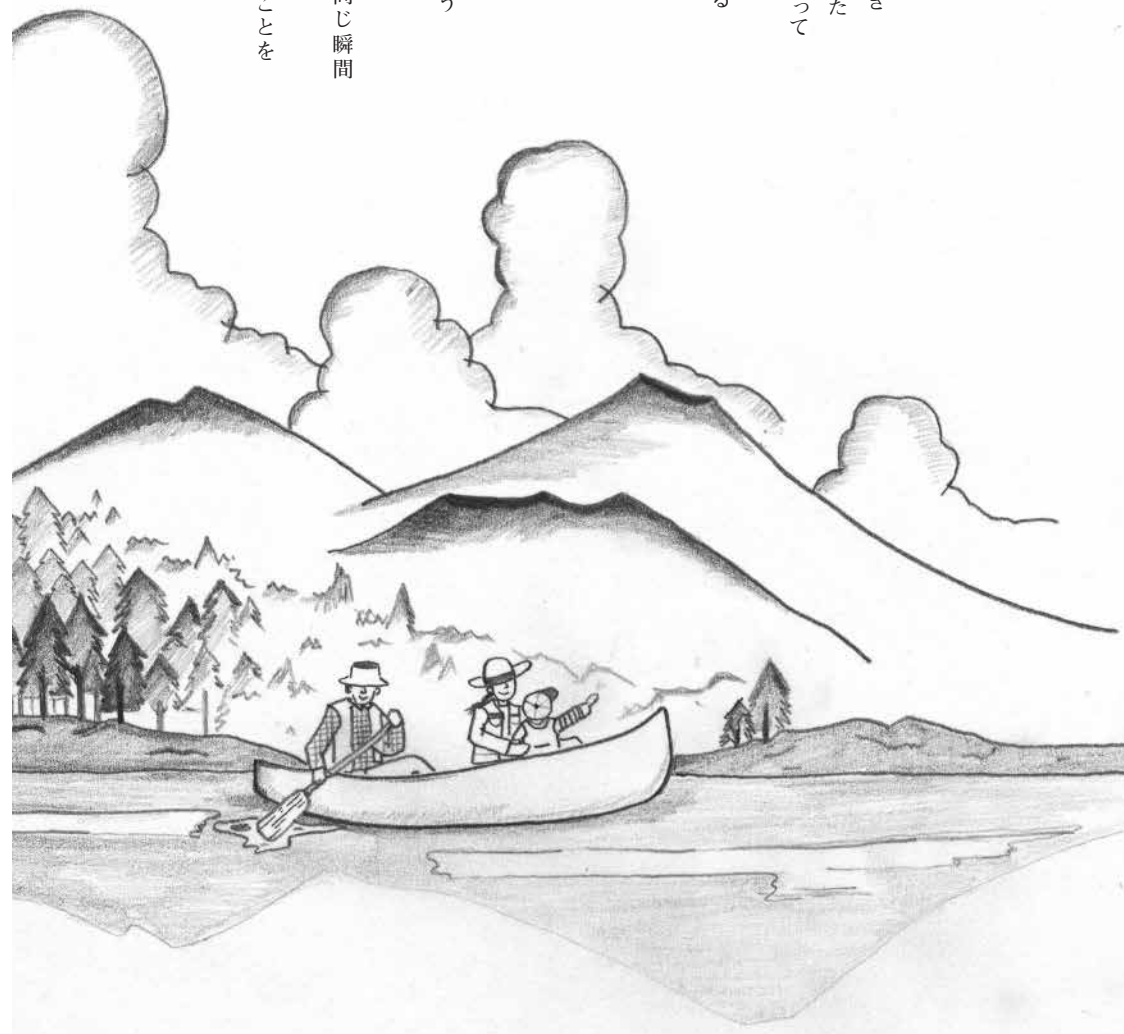


illustration by ladybird, text by Hirotaka Matsuzoe

[ミヤベイワナ]

text,photographed by Naturalist Mour

然別湖・問い合わせ先:北海道ツーリズム協会
0156-69-8088 www.htu.ne.jp/shikaribetsu/

北海道のほぼ真ん中に位置する大雪山国定公園内にある然別湖とその流入河川にしか棲息しないオシロコマの亜種。それがミヤベイワナ(北海道の天然記念物)である。このミヤベイワナと僕の最初の出会いは、昨年6月の出来事だった。ゴールデンウィークに、もう10年以上続けている阿寒湖への釣行。今年は、まさかの湖面結氷で釣りどころではなかった。暇を持って余す僕は、現地の釣り雑誌を買い、読んでみる。“然別湖特別解禁云々”と書いてある記事が目止まった。「美しい緑の宝石!」「ここにしか棲息しない!」「この特別解禁でしか釣ることが出来ない!」と、釣人を誘発する言葉が連発している。早速、問い合わせ先の北海道ツーリズム協会然別湖遊漁管理事務局へ電話をしてエントリーする。釣行までの時間は、まだひと月以上ある。様々な形で“然別湖”“ミヤベイワナ”を調べてみる。この“調べる”が僕はたまたま楽しく。然別湖は、古代の

火山が噴火した際に川を堰き止めて出来た火山性堰止湖or火山の噴火口の陥没により生成されたカルデラ湖、最大深度108m、冬季完全結氷、1年の寒暖差が60℃以上等々。棲息する生物はダケカンバ、クマガラ、シマフクロウ、モモンガ、ナキウサギなど、ワクワクしてくる単語ばかりがズラリと並び、未開発の自然がそのまま残る優美な森に囲まれた神秘的な湖のイメージが頭の中に描かれていく。一方、ミヤベイワナを調べてみると、オシロコマより鰓肥(さいは)が細長く約5本多いこと位しか分からない。じゃあ、「見た目はオシロコマなの?」「緑色じゃないの?」「見分けつくの?」と心の中の僕が問いかける。「でも、綺麗なオシロコマの50cmが釣れるんですよ!」と頭の中の僕は、大物アングラールになっていく。ちょうどその頃、Revolutionのthe naturalist modelを制作して頂く事になっていたので、早速、手島さんに

連絡。「絶対に間に合わせて!」と相手の都合も聞かずに納期の短縮をお願い(強要?!)そして6月、然別湖へ。無理を言っただけで納品して頂いたRevolution RB55プロに3lbラインを通し、ダブルラインを組む。まず、ランドロックのサクラの歓迎!続いてニジ!そして本命のミヤベがヒット!想像以上に綺麗なエメラルドグリーンのボディに鮮やかなピンクの斑点、そして精悍な顔つき。オシロコマと区別がつかないどころか全く違う。今度、ポイントをワンドの中へ移し、風の当たらない所でゆっくりと釣りを楽しむ。すぐにブラウンバックのミヤベがヒット!このブラウンバックは、確かにオシロコマが親戚関係にあることをよく理解出来るほど酷似している。そしてイワナの仲間であることを再認識できる個体である。制限時間の午後2時は、アツという間だった。湖から上がると事務局の田畑さんが親切に丁寧に然別湖とミヤベ

ワナについて話してくれる。とても興味深かったのは、「ミヤベイワナには、グリーンバック、ブルーバック、ブラウンバックの3色がいるんですよ!」という言葉。3種類?3色?・・・??。まるでルーアのような感じではないか。今まで「この魚を釣りたい!」「こんなサイズを釣りたい!」と、思ったことはあるが、「この色を釣りたい!」とは、一度も考えたことが無かった。「どうして3色いるのですか?」「3色のミヤベイワナは、何処に棲んでいるのですか?」と、質問した僕に、「回遊のものは、湖の色と同じグリーンになります。ワンドの中に居ているものは、湖が浅いから湖底の色のブラウンに染まります。」「じゃあ、ブルーバックは?」「それは、湖の色が夏になると、さらに透明度が増してグリーンからブルーに変わります。その頃にブルーバックになると思います。」「・・・」4日間の釣行は、アツという間に終わってしまった。ブルーバックのミヤベイワナは見ることも出来ずに・・・。

翌7月、しつこい僕は、再度、然別湖へ。勿論、夏色になった然別湖に棲むブルーバックのミヤベイワナを求めて・・・。天気は、快晴、水温17℃、文句なしの絶好釣り日和!しかし、掛かるのは、サクラとニジばかり。勿論、サクラもニジも釣れれば楽しいし、とても嬉しい。何より面白い!サイズもサクラが、30~40cm、ニジは、40~50cmと大きく、コンディションもバツグン!でも、ブルーバックのミヤベが釣りたいけれど、全然・・・ダメ・・・。「ミヤベイワナは、水温が15℃以下の層に棲息しています。それ以上の水温では、めったに釣れることは、ありません。だから、13~15℃の層を探ってみて下さい。」「それは、この時期、8m~10mのラインです。」「またまた田畑さんがアドバイスをくれた。8mラインを探るタックル?もっているルーアで狙うことの出来るものは、唯一スプーン。早速、スプーンをゆっくりと落とし込んで誘う。すると、すぐにヒット!だが、グリーンバックのミヤベ。10匹ほど

グリーンバックのミヤベが続いた。一息入れようと煙草に火をつけて辺りを眺める。僕の視界を綺麗なエメラルドグリーンの然別湖が埋め尽くす・・・。今回の釣行で、もっとビックリしたのは、撮影をしようとランディングするが、ほんの2、3分くらいで体が銀色に変化して、みるみる弱っていったこと。水面温度が17℃。この温度に耐えることが出来ないくらいデリケートで弱々しい。撮影するのも可哀想になるくらい・・・。然別湖の自然を大切にスタッフのみなさんの、ひたむきな姿がミヤベイワナの魅力を一層引き立てている。僕もその姿に魅了された一人として、ミヤベイワナの素晴らしさを皆さんに伝えることが出来たらと思い、筆をとった。いつの日か、グリーンバック、ブルーバック、ブラウンバックのミヤベイワナをキャッチして、並べて記念撮影しよう。その日が来るまで僕は、然別湖に通い続けることになりそうだ。



椎葉村 尾前溪谷

text, photographed by Yuichiro Mizukami

「熱血漢」そのものの友人がいます。クラスに一人はいた人気者でヒーロー。そんな彼と始めた溪流釣り。何の知識も無いまま無謀にも初釣行に出発しました。地図を片手に峠を越え、ばったり出会った野鹿の後を着いて行き、偶然見つけた素晴らしい溪流。スケールの大きさに圧倒され、呆然としてまともにキャストができませんでした。

釣り始めて数時間がたつたころ岩陰で休んでいる彼を見つけました。彼はそこで泣いていました。大きな岩に寄りかかって、目の前で涙を流す姿を見ると掛るべき言葉が浮びませんでした。自分のことで精一杯の私に人の事なんて何ができるだろう。ただただ戸惑ってばかりの私の横で彼は泣いていました。長い時間私はそばに座り、二人で水の流れを眺めていました。

静かに毎日を過ごすだけでも、生活していれば色々なことが起きます。その経験を通して、驚き喜び悲しみ悩むことを何度も繰り返し、多くの事を学ぶ。そして自分の考えにたどり着く。「これって面白いぐらい釣りと一緒やね。」「本当やね。」「焚き火の前に彼とした会話。「また鹿に会えるかな?」「どうかな。」と言って初釣行はぼうずで終了しました。「釣りっておもしろいと?」と聞かれ、戸惑う私の横で「釣りってイイよ。」と奴は言っていました。

度重なる自然災害で姿を変えたけれども、あの溪流には特別に深い思いがあります。とても大切な思い出です。

僕らが自然への遊びを求めるのは本当は脱日常ではなく、本能の回帰なのかもしれません。
我々は消費を繰り返すことに飽き、循環されることを喜びとするから釣り上げた魚を放すのかもしれない。

また自然への接触でもっとも直接的に感じられるものがつりなのかもしれないと思うのです。

「つり人しか知らない風景」を合言葉に収集を繰り返してきた僕らの写真がこうして

カスケットのカタログとしてカタチになったことは大変喜ばしいことです。

僕らは現代の「つり文化」を継承する者として、

もっと「つり」を高みに上げ、表現し、伝えなければならないでしょう。

この場を借りて投稿や協力を頂いた皆様にお礼を申し上げます。

そうして僕は、また来る春の水辺に向かって旅の準備を整えます。

2006年 初秋の湖面より

Hirosaki Teshima

